

第40回建設業経理事務士検定試験

3級試験問題

注意事項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
一	千	百	十	一	千	百	十	一
億	万	万	万	万	の	の	の	の
の	の	の	の	の	位	位	位	位
位	位	位	位	位				

3. 解答は、指定したワク内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 大阪工務店の次の各取引について仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下記の〈勘定科目群〉から選び、その記号（A～X）と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた（例）に対する解答例にならって記入しなさい。

（20点）

（例） 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- (1) 建設用機械の試運転費用¥80,000を小切手を振り出して支払った。
- (2) 前月に購入したA社株式5,000株（1株当たりの購入価額¥150、購入手数料¥20,000）のうち、2,000株を1株当たり¥200で売却し、代金は現金で受け取った。
- (3) 施工中の工事¥800,000が完成したため発注者に引き渡し、代金のうち¥500,000は当座預金口座に振り込まれ、残額は翌月に支払われることとなった。なお、当座借越勘定の残高が¥320,000ある。
- (4) 本社従業員の社会保険料¥13,000を現金で納付した。なお、このうち¥6,000は従業員の給料から差し引いたものである。
- (5) 銀行に預け入れていた定期預金¥300,000が満期となり、その利息¥6,000とともに期間1年の定期預金として継続して預け入れた。

〈勘定科目群〉

A 現金	B 当座預金	C 定期預金	D 機械装置	E 有価証券
F 完成工事未収入金	G 立替金	H 当座借越	J 借入金	K 支払手形
L 預り金	M 経費	N 雑費	Q 支払手数料	R 法定福利費
S 保険料	T 有価証券売却損	U 有価証券売却益	W 完成工事高	X 受取利息

〔第2問〕 次の〈資料〉に基づき、下記の設問の金額を計算しなさい。なお、収益の認識は工事完成基準を適用する。

（12点）

〈資料〉

1. 20×3年4月の工事原価計算表

工事原価計算表

20×3年4月

（単位：円）

摘 要	A工事		B工事		C工事		D工事	合 計
	前月繰越	当月発生	前月繰越	当月発生	前月繰越	当月発生	当月発生	
材 料 費	98,300	× × ×	× × ×	41,600	× × ×	65,300	75,200	453,600
労 務 費	22,100	86,700	83,300	23,000	43,200	× × ×	× × ×	422,300
外 注 費	× × ×	23,800	99,600	× × ×	45,600	33,500	51,200	× × ×
経 費	12,400	15,900	× × ×	× × ×	21,100	74,900	64,300	283,600
合 計	× × ×	144,000	362,100	133,400	150,300	× × ×	246,300	× × ×
備 考	完 成		完 成		未 完 成		未 完 成	

2. 前月より繰り越した未成工事支出金の残高は¥678,300であった。

問1 前月発生 of 材料費

問2 当月の完成工事原価

問3 当月末の未成工事支出金の残高

問4 当月の完成工事原価報告書に示される経費

〔第3問〕 次に掲げる<20×6年3月中の取引>を解答用紙の合計試算表の(イ)当月取引高欄に記入し、次いで(ア)前月繰越高欄及び(イ)の欄を基に(ウ)合計欄に記入しなさい。なお、(イ)の欄の各科目への記入は合計額によること。なお、材料は購入のつど材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替えている。(30点)

<20×6年3月中の取引>

- 3日 手許現金を補充するため小切手¥120,000を振り出した。
- 5日 借入金¥300,000の返済とそれに対する利息¥2,000の支払いを現金で行なった。
- 8日 工事契約が成立し、前受金¥300,000を小切手で受け取った。
- 9日 施工中の工事¥700,000が完成し、発注者に引き渡した。なお、工事代金のうち¥200,000は前受金と相殺し、残額を請求した。
- 10日 取立依頼中の約束手形¥280,000が支払期日につき、当座預金に入金になった旨の通知を受けた。
- 11日 工事の未収代金の決済として¥300,000が当座預金に振り込まれた。
- 12日 外注業者から作業完了の報告があり、外注代金¥350,000の請求を受けた。
- 15日 材料¥10,000を本社倉庫より現場に搬入した。
- 16日 本社事務員の給料¥200,000、現場作業員の賃金¥220,000を現金で支払った。
- 17日 掛けで購入し本社倉庫に保管していた材料に品違いがあり、材料¥70,000を返品した。
- 19日 現場の電話代¥30,000を現金で支払った。
- 20日 材料の掛買代金支払のため、小切手¥150,000を振り出した。
- 22日 本社の家賃¥50,000を現金で支払った。
- 23日 当社振出しの約束手形¥240,000の期日が到来し、当座預金から引き落とされた。
- 24日 銀行より¥500,000を借り入れ、利息¥3,000を差し引かれた手取額が当座預金に振り込まれた。
- 25日 本社の事務用品代¥26,000を現金で支払った。
- 27日 外注費の未払代金¥300,000の支払いのため約束手形を振り出した。
- 30日 応接セット一式を購入しその代金¥330,000は小切手を振り出して支払った。
- 31日 借入金の利息¥3,000を現金で支払った。

〔第4問〕 次の文の の中に入る最も適当な用語を下記の<用語群>の中から選び、その記号(ア～シ)を解答欄に記入しなさい。(10点)

- (1) 固定資産の補修において、当該資産の能率を増進させるような性質の支出は a と呼ばれ、現状を回復させるような性質の支出は b と呼ばれる。
- (2) 減価償却の記帳方法には c と d の2つがある。
- (3) 材料の消費単価の決定方法には e 、移動平均法などがある。

<用語群>

- | | | | |
|---------|---------|-----------|---------|
| ア 定額法 | イ 定率法 | ウ 継続記録法 | エ 先入先出法 |
| オ 資本的支出 | カ 収益的支出 | キ 棚卸計算法 | ク 間接記入法 |
| コ 直接記入法 | サ 減価償却費 | シ 減価償却累計額 | |

〔第5問〕 次の<決算整理事項等>により、解答用紙に示されている奈良工務店の当会計年度（20×3年1月1日～20×3年12月31日）に係る精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を經由して処理する方法によっている。
(28点)

<決算整理事項等>

- (1) 現金の実際有高は¥450,000であった。帳簿残高との差額は雑損失として処理する。
- (2) 有価証券の時価は¥333,000である。評価損を計上する。
- (3) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して3%の貸倒引当金を設定する（差額補充法）。
- (4) 機械装置（工事現場用）について¥100,000、備品（一般管理用）について¥33,000の減価償却費を計上する。
- (5) 保険料には前払分¥5,500が含まれている。
- (6) 利息の未収分が¥3,300ある。
- (7) 未成工事支出金の次期繰越額は¥783,000である。